

平成22年10月1日(金)

第20号

市川新聞

(討議資料)

発行所

市川かずひろの会

藤沢市川名181-18 B1001

TEL 0466-24-4871

E-mail ichikawa.kazuhiro@jcom.home.ne.jp

(定期発行)

ご挨拶

皆様におかれましてはご健勝の事とお慶び申し上げます。皆様のご理解とご協力のおかげさまで市議会議員として四年目を迎えることが出来ました。

私は当選当初より一期目のライフワークとすべき取り組み課題のひとつを経済産業政策としました。それは、弱者に対する福祉政策も、社会資本整備も教育政策も大切であります。しかし、それらの全ての政策を遂行していくためには予算が欠かせません。となれば、政策の中の政策とは全ての政策遂行の原資を生み出す仕組みづくりであると考えたからであります。

私はその視点を大事にしながら市政発展のためにこれからも取り組んでまいりたいと思っております。皆様におかれましては叱咤激励、ご指導賜りますようお願い申し上げます。藤沢市議会議員 市川 かずひろ

いまもあしたも

誇れる藤沢であるために

市川かずひろ一期目の挑戦

議会活動報告

九月定例議会スタート

九月一日より十月四日までの間、九月定例議会が行われます。本町小学校改築建築工事や仮称藤沢市リサイクルセンター建設工事などの工事請負契約議案や藤沢市副市長定数条例議案、コンビニ証明交付事業、地域子育て支援センター事業費、幼保連携強化調査研究事業費などの補正予算議案を審議します。



市川かずひろ 39歳

昭和46年4月8日 藤沢市鶴沼神明に生まれる

- 元経済産業大臣(甘利明)秘書
- 六会幼稚園
- 六会小学校
- 湘南台中学校
- 日本大学藤沢高校
- 日本大学法学部経営法学科
- 大和工務(株)
- 労働大臣(甘利明)秘書
- 衆議院議員(甘利明)公設第二秘書

- 藤沢市議会議員
- 建設常任委員会 委員
- 環境災害等特別委員会 委員
- 議会報編集委員会 委員長

- 藤沢左官組合 顧問
- 藤沢市電設業協会 顧問
- 藤沢市管工事業協同組合 顧問
- 藤沢市緑化事業協同組合 顧問
- 藤沢若とび連合会 顧問
- 村岡地区諸団体 顧問
- 新林地区社会体育協議会 顧問
- 少林寺拳法藤沢道院 顧問
- 藤沢市パドミントン協会 会長

是非ご参加ください。藤沢市議会議員 市川 和広 『市川かずひろの会』 総会・親睦会のご案内

日時：平成22年10月29日(金)午後6時より
場所：藤沢産業センター6階 (藤沢市藤沢109湘南NDビル) TEL 0466-21-3811
JR・小田急藤沢駅北口徒歩2分、藤沢郵便局隣のビル
会費：男性 2,000円 女性 1,000円 (当日受付でお支払いください。親睦会費とします。イベントも企画します。)



前回会員集會にて

市川かずひろの一般質問！

藤沢駅周辺地域の活性化について

(市川) 私は、中心市街地の活性化は税収面、そこから付随する行政サービスの向上と、長い歴史の中で都市の伝統文化を継承してきた点、今日のような社会を迎え、厳しい財政のもとで効率的な行政運営が求められている中、蓄積されたストックの有効活用など、中心市街地の活性化は絶対に必要ではないかと考えております。海老根市長を初め職員の皆様にも、これから駅周辺をどうしていくかという諸課題に臨んで、毅然として立ち向かうエネルギー、勇気を今以上に持っていただきたいと思っております。

活性化法の活用も視野に入れた上で、藤沢駅南北が一体となった活性化に向けて優先的に取り組む課題について協議を進めてまいりたいと考えております。

そして、藤沢駅周辺の再活性化にとりまして何よりも重要なテーマと考えておりますのが、JRと小田急の駅の再整備であると考えております。鉄道事業者とも既にお話をさせていただいているところがございます。駅につきましても、駅利用者との動線のふくそう、南北を一体化させる動線の確保など、さまざまな課題もあると考えております。このような藤沢駅の南北周辺が一体となった活力と魅力ある都市づくりを目指すには、行政、企業、市民の方々、交通機関がそれぞれ役割分担をしながら総合的に対応を進めていく必要があると考えております。

そのために、今年度は南北まちづくり協議会や鉄道事業者などとしつかりと議論し、整理をした上で、平成22年度には地元関係団体、関係機関、学識経験者、国、県などから成る検討の場を設けていきたいと考えております。その中で藤沢駅周辺のまちづくりの方向性につきまして確認をとり、再整備構想をまとめてまいりたいと考えております。

今年度は文化芸術の持つ人々を引きつける魅力や社会に与える影響力が世界的にも認識をされ、経済活動においても新たな需要や高い付加価値を生み出す源泉ともなっており、創造的産業として地域の活性化にも密接に関連しているところでもあります。これらの施設誘致は湘南の地に新たな魅力を創出するとともに、多くの方々を湘南CIXに訪れることも見込めることでもあり、観光の振興にも資するものと考えております。したがって、前回の代表質問でもお答えさせていただき、市のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

湘南CIXについての産業誘致の現状と今後の取り組みについて

(市川) 本年2月の我が会派の代表質問におきまして、市長は湘南CIXの町の付加価値を高めることにより、より町への誘客を見込んでいくには、日本のコンテンツ産業の市場規模が約14兆円で、世界第2位の生産規模と成長可能性に着目し、創造的産業を誘発していくためにはアニメや漫画のコンテンツ、文化の核となる機能の誘致が重要であるとの認識を示され、これからの新しい産業の誘致を他のどの自治体よりも先駆けて行っていくことが重要であり、行政を挙げて取り組んでいくというお考えを示されたわけでありました。また、市長は、日本動画協会の理事長でありました手塚治虫事務所の社長にもお会いをして、積極的に湘南CIX複合機能ゾーンへの誘致活動を行ってきた旨のお答えがありました。

自民党神奈川第十二区支部長に星野剛士さん



自民党神奈川県連では私たちの住んでいる藤沢市、そして、お隣り寒川町、いわゆる神奈川県第十二選挙区の自民党支部長を公募というかたちで選出することを決め、六月より公募を開始。厳正な審査の結果、元県議会議員の星野剛士さんが自民党神奈川第十二選挙区支部長に就任しました。次期衆院選総選挙の十二区候補予定者です。毎週水曜日ホシノテレビをUSTREA (http://www.ustream.tv/channel/hoshinotv) で配信!

今日では文化芸術の持つ人々を引きつける魅力や社会に与える影響力が世界的にも認識をされ、経済活動においても新たな需要や高い付加価値を生み出す源泉ともなっており、創造的産業として地域の活性化にも密接に関連しているところでもあります。これらの施設誘致は湘南の地に新たな魅力を創出するとともに、多くの方々を湘南CIXに訪れることも見込めることでもあり、観光の振興にも資するものと考えております。したがって、前回の代表質問でもお答えさせていただき、市のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

(裏面へ続く)

(表面より続き)

が、当面は本年7月1日に施行された藤沢市緑の保全及び緑化の推進に関する条例を活用いたしまして、道路計画と整合を図りながら緑地の保全を図ってまいりたいと考えております。

こうしたことを踏まえまして、横浜藤沢線の計画に当たっては、川名緑地の保全に向けてできる限り配慮が必要であるとの認識をしております。県には具体的な構造検討の際、事前の調査段階から十分な調査の内容としていただくよう既に要請をしたところでございます。県では、横浜藤沢線の計画に当たります

て、トンネル構造をできるだけ長くし、環境に配慮した素案を作成しておりますが、事業実施に向けては、川名緑地部分の計画につきましては、緑地に詳しい専門家あるいは地域の方の御意見もお聞きしながら、具体的な道路構造の検討を進めまして、緑地保全に努めていくこととでございます。本市といたしましては、横浜藤沢線、川名緑地の重要性を踏まえまして、道路事業と緑地保全の整合を図れるよう、今後も県と連携し、事業促進に努めてまいりたいと考えております。

(市川) 私が今回の質問を通じて何を一番明らかにしたかったかといえ、この道路の事業を推進する必要性ということであり、この道路に関して、例えば藤沢市としてこういう都市像を目指しているか、その中の横浜藤沢線はこうだとか、村岡地区にとつては横浜藤沢線がどういう都市基盤に当たるのか。もちろん片瀬地区でもそうでありますけれども、やっぱりこのところを明確に打ち出して説明していくことが一番重要ではないかと私は考えております。ですから、都市計画の中の計画道路という位置づけをしっかりと認識しないといけないのかなと思っております。

そこで、これは最後の質問でございますが、市として今後どのように進めていくのか。私が今再三申し上げました都市計画道路の中の計画道路の位置づけという部分も

ひ御考慮いただいて、市の考えをお聞かせいただきたいと思っております。

(市長) 本市における都市基盤は、これまで住宅や工場用地の需要の高まりや自動車社会の進展への対応といった時代の潮流をとらえて整備を進めてまいってきたところであります。今後も新たな総合計画を策定する中で、目指すべき都市像を定め、新たな課題解決に向けてスピード感を持って都市基盤整備に対応してまいりたいと考えているところでもあります。

本市にとって横浜藤沢線は、都市づくりの上で骨格となす重要な都市基盤であるというふうにとらえております。特に本市の南部市街地には、本路線の整備による広域道路網の確立が重要であり、災害時には緊急輸送路として機能すること、また、中心市街地や生活道路から通過交通を排除することにより、藤沢駅周辺の中心市街地活性化や生活道路の安全確保に効果を上げ、道路混雑緩和による自動車の走行速度向上により、二酸化炭素削減効果も期待ができることでもあります。

そしてさらに、市で進めている湘南藤沢の江の島観光振興にも欠くことができない路線であります。本路線の完成によりまして、鎌倉市、横浜市のもとより、首都圏と日本屈指の海浜観光地であります片瀬江の島地区を直結することで、観光振興の上でも集客を初めとした効果が大きいものと考えています。

そしてまた、片や新たなまちづくりとして神奈川県や鎌倉市と連携して進めている村岡地区のまちづくりの計画は、市民との協働により計画づくりに取り組んでおり、来月にもその素案を広く地域の皆様にご説明することとしております。この村岡地区まちづくり計画においても、本路線の延伸が必要な都市基盤整備として位置づけられているところでもあります。

このように、横浜藤沢線は本市の将来に向けた施策には欠くことのできない都市基盤であり、ますますその重要度は高まっていくものと考えて

おります。事業実施に当たっては、生活環境や、当然、貴重な緑地の保全など、環境に配慮した道路整備が必要であることは言うまでもないわけであり、この点を県に働きかけるとともに、必要と判断される道路は着実に整備するという考え方のもとに県と連携し、事業促進を図ってまいりたいというふうに思っています。

再生可能エネルギーを活かした低炭素社会への取り組みについて

(市川) 本年、再生可能エネルギーが政令で位置づけられた部分も増えています。まず、環境都市とされている本市が低炭素社会に向けての自治体政策としてどう考えているか、私は、本市の産業構造であったり、住宅事情であったり、地域特性を踏まえた地域に合った温暖化防止策を市が率先して市民の皆さんにお示しをするべきと考えておりますが、お考えをお聞かせいただきたいと思っております。

(市長) 温暖化防止対策も、本市単独ではなく、広域的な視点に立って実施することにより効率的、効果的になるとの考えから、お隣の茅ヶ崎市、寒川町と連携した取り組みとして、湘南エコウエーブプロジェクトを立ち上げました。そのプロジェクトの活動としては、電気自動車の普及、アイドリングストップ・ノーカローターの推進、イルミネーションライต์ダウンなど10の施策があり、去る12月6日には、県立里山公園におきまして、電気自動車の普及に向けた取り組みとして2市1町の共同導入式を実施したところであります。また、本年4月には組織改正を行いまして、総合的、横断的に環境施策を推進する視点に立ちまして、環境都市政策課の新設をしたところでもあります。

市民の皆さんお一人お一人が次世代に引き継ぐべき環境を意識し、地球温暖化防止に向けて行動していただくためには、現在、市が目標としております二〇一〇年における市内から排出される温室効果ガスを一九九〇年比でマイナス6%、この目標値をさらに高める必要があると考えているところでもあります。そのため、現在策定を進めております新総合計画や、来年度改定を予定しております環

境基本計画及び地球温暖化対策地域推進計画の中にも国の温室効果ガスの削減目標を踏まえるとともに、比較的排出割合が多い製造業、オフィスビル、御家庭の自動車などの地域特性を視野に入れた本市独自の目標設定や温暖化防止対策を推進していきたいというふうにご考えているところでもあります。

管路施設の長寿命化対策について

(市川) 今後、市全域で約1,500キロメートルに及ぶ下水道管路のストックが増大することを考えますと、恐らくこのままでは事故も増加する傾向にあると考えられます。そこで、私は、市民の皆さんの生活における安心安全を維持するために、管路寿命の延長化による維持管理費の平準化や事故の予防保全型の施設維持管理マニュアル等に基づく長期的な視点でのストックマネジメントというものが必要であると考えています。

そこで、国においても下水道施設の老朽化対策として、下水道長寿命化支援制度が創設され、本市でも活用に向けて作業を進めているとのことであり、私も、そういった制度の概要、あるいは今の取り組み状況、そして、今後どういうふうにしていくのかという点についてお聞かせいただきたいと思っております。

(土木部長) 下水道長寿命化支援制度につきましては、維持管理費への財源措置を伴う予防保全的な管理並びに計画的な改築などを行うことにより、事故の未然防止及びライフサイクルコストの最小化を図ることを目的とした制度でございます。平成20年度に創設をされているところでもございます。本市の下水道事業におきまして、施設建設から適正な維持管理による機能保全重視型への転換期を迎えており、当制度の活用は重要であると考えております。

本市の取り組み状況でございますが、現在、詳細な制度運用方法や具体的な計画策定標準の把握に努め、部内関係

観光政策について

観光政策については、観光コンテンツによる地域ブランド化について

(市川) 集客や地域振興に向けた新たな作品の招致と、作品とタイアップしたキャラクター等の活用についてどういうふうにお考えになっていらっしゃるのか、お聞かせをいただきたい。

(市長) 本市を舞台にした新たなアニメ作品の誘致でございますが、現在、江の島を舞台にしたアニメの映画化について、制作サイド並びに地元関係者と今調整を行っているところでもあります。この作品につきましては、シナリオ段階から参加をさせていただきまして、江の島の風景だとか、町並みなどのアピールを行い、ごらんいただいた方に観光都市湘南藤沢のファンになっていただけるような最大限の支援をしていきたいと考えているところでもあります。

また、本市で制作された作品の公開後に、作品から生まれたキャラクターだったり、名産品と作品とのタイアップは、これまで本市の観光に接点のなかった新たな集客層の獲得、そして知名度アップ、さらには作品の舞台となった地域でのコミュニティ意識の向上などにつながる可能性が非常に高いと考えております。したがって、こうした二次的効果の創出はこれからの地域振興、観光振興の有力な手段の一つとしてとらえておられますので、日ごろから

地域分権が進む中で市内企業に対する考え方について

(市川) 私が申し上げたいのは、多くの方からのお話を総合的に私なりにとらえると、市内の会社の多くは地域分権に対しては理解があります。地域との結びつきを考えているとか、あるいは地域への思いが強いという会社は、地域の活性化に対する思いが強いんですね。ということで、こうしたことを踏まえて、市内企業への環境整備だとか、地域分権が進む中での土壌というものを培っていく必要があるのではないかと考えておりました。そうしたことをしていくことが、市内業者育成をする上で大切な視点ではないでしょうかというところを思っているわけであり、

しかしながら、実際に仕事の確保ということになりますと、民間同士もそうですし、ましてや公共事業などは権限と予算が幾ら地域に移ってきても、待ってればありつきます。そのような時代ではないわけでありまして、行政にしても、企業にしても、知恵を出し合っていくことが本当に重要なのだなと思っております。そこで、地域分権を推進していくに当たってどのように市内業者を育成していくかというところを、お考えをお聞かせください。

(市長) 本市では、藤沢市経営戦略基本方針に、市民と取り組む新しい公共というのを掲げておりまして、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業等とのパートナーシップを強化し、多様な主体との協働により新しい公共づくりを今目指しているところでもあります。今後、地域

制作サイドに対しては協力をしていただけるよう依頼を行っているところでもあります。そうした意味で、今後もフィルム・コミッション事業による作品制作が一過性に終わることのないよう、作品によるさまざまな効果に着目し、幅広い振興策に寄与することを目指して取り組んでまいりたいと考えております。

お声をかけてください!

日々、様々な活動・勉強をさせていただき皆様のお役に立てるよう全力で行動していきたいと考えております。市政に対する皆様のご意見またはお気づきの点等ありましたら、お気軽にお声をかけてください。

お問い合わせ先 市川かずひろの会事務所
TEL/FAX: 0466(24)4871
メール: ichikawa.kazuhiro@jcom.home.ne.jp

市川かずひろの政治活動はすべて皆様からの寄付金と自己資金で賄われています。活動にご理解を頂いた皆様へ寄付のお願いをさせて頂いております。是非ご協力の程よろしくお願致します。

市川かずひろの会
三菱東京UFJ銀行 藤沢支店 普通通1010969

また、頂いたお気持ちは法律の定めにより、県議や政令市議などに対する寄付と異なり、**寄付金控除の対象にはなりません**ので、予めご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

▲お見かけしたら是非お声をかけて下さい。